

集団授業形式と個別対応形式

「ラストサムライ」という映画が話題となっています。映画の批評が目的ではありませんが、幕末から明治への激動の中で滅び行く実在としての『武士』と、受け継がれる目には見えない『武士道』精神を描いた秀作であると思います。しかし、何よりも驚きであったのは、『武士道』を描いたこの作品がアメリカで制作された映画であるということです。時間と場所だけでなく、人種・民族の文化・価値観を越えて感動を伝えたアメリカ映画界に敬服します。

今年から愛知県も絶対評価の通知表による高校入試となり、従来の入試地図が大きく変わる予感があります。こうした制度上の変更もありますが、最近強く感じることは、生徒（塾生）や保護者の方の勉強や塾に対する考え方や期待が大きく変わってきたということです。一昔前の塾とは、40～50名といった大人数の集団授業が当然であり、その中で競い合って伸びるのがむしろ主流であったのですが、最近はこちらのような少人数や個別形式が増えてきたように思います。こうした変化の原因は、集団・共同体よりも個人・個性を重視する社会全体の価値観の変化や、生徒各自のスケジュールの多様化にあると思います。かつての中学生であれば学校の授業と部活動のみでほぼそろっていた生活リズムが、今は各種の社会スポーツ・習い事等によって夕方から夜のスケジュールが千差万別になっています。

およそ10年前、塾を始めたころは少人数の授業形式が理想であると考えていました。私自身も先月も書きましたように、授業が好きです。しかし形にこだわるあまり現実の要求にそぐわないものを提供しつづけるというのは、時代錯誤なのかもしれません。

来年度（今年3月）から一部に個別対応形式のクラス（時間帯）を設けることを考えています。従来は集団授業形式も毎年少しずつ変えてはきましたが、今回付け加える個別対応方式は根本的な教え方の変更になります。時間帯・指導科目・学校が合わないことなどで入塾に障害がある方にとっての力になれるかもしれません。さらには私立中学入試を考えている小学生や私立中学生、高校生や浪人生も科目によってはフォローも可能です。ただし、個別に対応するということは、塾生自身個々に目的意識を持って塾に通ってもらうことを前提としています。形は変わっても「がんばろうとする意志のある生徒の勉強の手助けをする。」という『セミナールーム主義』は何ら変わりません。なお、従来は授業形式のクラスは引き続き各学年とも設けます。5科目トータルでフォローする形式がうちの主流であることにも変わりはありません。

具体的な時間帯や授業料・教材等などはこれから設定致しますので、最終的な案内はもう少し先になります。

'03年度2学期通知表結果

9科目別平均	英語	数学	国語	社会	理科	5科目計	音楽	美術	保体	技家	9科目計	
学年	1	4.9	4.9	3.9	4.3	4.2	22.6	4.1	4.2	4.0	4.0	38.6
	2	4.8	4.8	4.4	4.7	4.4	22.2	4.2	3.8	3.9	3.7	38.7
	3	4.7	4.7	4.1	4.5	4.7	22.7	3.7	3.8	4.5	4.2	38.9